群馬県立渡良瀬特別支援学校　学校評価一覧表（令和５年度版）

（様式）

羅針盤				方策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	総合			
Ⅰ　幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1　保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	○学校からの情報提供に保護者の85%以上から理解を得ている。	全学部	・紙媒体で発行している文書のデジタル化を進める。 ・Webページの充実を図る。	A	A	A	学校だよりや学年・学級通信では写真を多用したり、読みやすい紙面構成にすることで、関心が持てるように工夫した。また通信を保護者が閲覧できるクラウドに載せ、カラー写真で学校行事を知らせたり、Webページに学部ごとの様子を掲載したりすることで、学校からの情報提供を行った。	・点検・評価及び達成度、すべてがA評価となっており、保護者は学校からの情報提供やPTA活動、交流学習等に満足している様子がうかがえる。どの活動も子どもたちにとって有意義な活動だと思った。 ・第1回評議員会での校内見学、また、渡特だよりを毎回いただき、また学習発表会の参観を通して校内での生徒の活動の様子が伝わった。 ・生徒一人一人の実態に合わせた発表や販売の担当などで工夫されていて、生徒たちが輝いて見えた。日頃の授業の賜物と感じる。 ・交流などはあるが、地域からは孤立している。地域になじんでいるとも思えないし、先生方もそういう意識があるように思えない。	・Webページの充実を学部・関係分掌と連携して取り組んでいき、学校からのさらなる情報発信に努めたい。
	2　保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○PTA活動（総会・納涼祭・渡良瀬祭）に参加した保護者の80%以上から　満足を得ている。	渉外部	・PTA活動の時期や方法について、学校の方針と役員の意向を調整しながら検討する。 ・より多くの保護者に参加してもらえるようPTA活動の様子を全保護者に知らせる。	A	A	A	・PTA総会や納涼祭、渡良瀬祭のバザーなど4年ぶりの開催であったが、PTA役員会で開催方法等を協議しながら実施することができた。 ・PTAセミナー（研修視察など）やバザーへの参加、協力依頼について、文書、メール等で呼びかけを行い、多くの参加や協力をいただくことができた。		・時代に合ったPTA活動にしていくために、学校方針を引き続き丁寧に伝えていくことや、幅広い保護者の意向を把握し、PTA役員とよく相談しながら活動内容の検討していくことが必要である。
		○交流及び共同学習について、交流相手及び保護者の80%以上が、子どもにとって有用であると感じている。	学習指導部	・生活単元学習等での鹿田山での活動や学校間交流等において、パートナーシップを大切にした子どもたちの心に残る活動を計画的に展開する。	A	A	A	・小学部では、県のフォレストリースクールを利用し、鹿田山での自然学習を行った。高等部では、大間々高校との交流で鹿田山の畑でさつまいもを栽培した。		・小学部や中学部でも学校間交流で鹿田山を利用して活動ができるとよい。交流することだけが目的ではなく鹿田山を利用するなどの心に残る活動を計画したい。
Ⅱ　地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3　障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	○本校に直接依頼のあった巡回相談において、訪問した園・学校の80%以上が相談支援について満足している。	地域支援部	・依頼のあった園や学校に事前連絡をし、参観や相談の観点を明らかにしてから訪問する。相談時は具体的な支援方法を伝えることでニーズに応じた相談支援を行う。	B	A	A	・依頼のあった園・学校向けのアンケート調査では巡回相談時の助言に対して「とてもよかった」「よかった」の回答が100%であった。事前に観点を明らかにして対応したことで、ニーズに応じた。	・本校でも、巡回相談を活用させていただき、特別支援教育の充実を図っている。常に的確なアドバイスをいただき、少しずつだが、特別支援学級の担任の資質も向上してきているように思う。特別支援に関するセンター的機能を十分に果たしているように思う。 ・果たしているとはいえない。地域の保護者と話す機会などもあるが、そういった印象はない。「わたっこくらぶ」もあるが、人数が限られているし、必要な方すべてが来られているわけではない。（あまり浸透していない）	・定期的な巡回相談に対応できるよう年間を通した申し込みを受け入れたり、さらに多くの学級に利用してもらえるよう啓発したりする。
		○地域の関係機関や保護者と連携して行う「地域サポート事業わたっこくらぶ」の活動内容について、参加した保護者の80%以上が満足している。	地域支援部	・毎回の面談を通して幼児と保護者のニーズを把握し、部内で共通理解を図りながら有効な支援を探る。活動を通して見られた幼児の姿から有効だった支援を伝えたり、家庭でもできそうな支援方法を保護者と一緒に考えたりしながら支援をつなげる。	A	A	A	・保護者アンケート調査では、活動内容について「とても良い」「良い」の回答が100%であった。面談や活動の様子から捉えた保護者や幼児のニーズを部内で共有して有効な支援を探ったり、保護者に具体的な支援を伝えたりして、一人一人に合った支援を提案した。		・活動内容を、新しく参加する幼児の様子や保護者のニーズに応じて見直していく。 ・参加幼児が利用する関係機関と連携をとり、より良い支援を探りつなげられるようにする。
Ⅲ　幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4　個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○一人一人の学習状況において、「個別の指導計画」や単元評価等を利用して、それぞれの児童生徒の学びの根拠を担任は説明することができる。	学習指導部	・校内研修のアセスメントシートや単元計画などを用いて、児童生徒一人一人の学びの根拠を説明できる環境を整えていく。	A	A	A	・アセスメントを取り入れたり、単元計画を作成したりして、学びの根拠を説明できる環境づくりが行われてきた。	・「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」についてほとんどの保護者が理解し、指導の結果に満足していることから、一人一人の実態に応じた適切な指導が行われていると感じた。 ・児童生徒たちの明るい顔が何よりでした。 ・一クラス当たりの生徒の人数に対しての先生の人数はとても手厚く感じます。その分先生がお休みになったときにきちんとサポートできる体制ができているのか指導が行き届くのか心配。『授業』という面だと正直見る機会が少なく分かりかねる。 ・資料を見る限りは、指導しているように思えるが、実際のところは不明。周囲の保護者からは厳しい意見も出ている。表面上では分からないこともたくさんあると思う。	・アセスメントがどのように実態に応じた適切な指導に結び付くのか、単元計画作りがどのように授業改善につながるのかというような検証を行っていく。
	5　指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○「個別の指導計画」や単元計画に基づいた指導結果について、保護者の80%が満足している。	学習指導部	・単元や題材ごとに3観点の評価規準を設けて、単元や題材ごとに3観点評価を行うことを積み上げていき、評価を授業改善に生かしていく。	A	A	A	・単元計画や個別の指導計画において、内容の関連やつながりなどが意識されてくることで、反復やスモールステップなどの丁寧な指導が実践されている。		・ESDカレンダーを活用するなどして、単元や題材のつながりや身に付けたい資質・能力の関連などを意識した計画的な指導を行うようにする。
		○改善授業等の検討会の内容について、教員の80%以上が満足している。	全学部	・授業計画の評価など、教師側の評価を行いながら授業改善を図る。	B		B	・全教員を対象とした授業改善での管理職からの指導助言や初任者研修の授業研究会でおいて、授業計画や今後の課題について授業者に助言する場面を設定した。		・授業における単元題材計画の評価や教師側の指導に係る評価については、どのような場面で行えるか、さらに検討していく。
Ⅳ　健康や安全の確保に努めていますか。	6　健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○基本的な生活習慣の確立や感染症予防に関する指導を行い、保護者の80%以上から理解を得ている。	保健部保健係	・児童生徒の規則正しい生活習慣や肥満予防に関する指導について、養護教諭、担任、家庭、施設の連携を図りながら実施する。 ・感染症予防の基本的な指導を、学校医と連携をとりながら徹底する。	A	A	A	・年度途中で新型コロナウイルス感染症の5類移行があったが、感染症対策に継続して取り組み、内部アンケートで91．6%、外部アンケートで97．4%の理解を得ることができた。	・児童生徒の健康や食生活に関する配慮や対応について、ほとんどの保護者が良いと回答しており。保護者からの信頼を得ていることがうかがえ、大変素晴らしいことだと思った。 ・校内でのヒヤリハットの事例等での話し合いは大切であると感じる。 ・健診や保健だより、雪に伴う配慮ができていると思う。訓練等も実施されている。 ・備蓄や災害時の児童生徒の引き渡しカードなど備えられていると思う。	・感染症対策に関しては一定の成果が得られたと思われるが、児童生徒の肥満率は相変わらず高く、肥満予防に関して、力を入れて取り組んでいきたい。
		○食育を総合的・計画的に推進し、児童生徒の健康に配慮した食生活や、SDG'sに関連した食の指導について、保護者の80%以上から理解を得ている。	保健部給食係	・給食時のマナーや偏食指導、食生活や感謝する心の指導について、栄養教諭、担任、家庭、施設が連携を図りながら実施する。	A	A	A	・栄養教諭が各クラスで授業を行ったり、ホームページで給食のメニューを公開したりすることで、内部アンケートで81．9%、外部アンケートで95．7%の理解を得ることができた。		・保護者に給食に対する理解を深めてもらうために、コロナ禍では実施が困難だった給食試食会の実施を検討している。
	7　危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○緊急時対応の訓練や安全学習の指導を通して『危機対応マニュアル』の見直しを継続する。	管理部危機管理・施設備品係	・各訓練や安全学習の指導、研修会での反省などを分掌会議で確認し、実施要項や『危機対応マニュアル』を振り返り、外部機関にも相談しながらより実態に合った安全な方法を検討する。	A		A	・避難経路や避難場所について、分掌内や管理職と検討を行い、消防署の助言を受けながら、現状にあったマニュアルの見直しに努めた。		・学校評価アンケート(学校職員用)では、『危機対応マニュアル』は「ページ数が多くて利用できにくい」、「古い内容がある」などの意見もあるので、ページ数や内容も含めて検討していきたい。
		○『危機対応マニュアル』 の内容について、本校の危機管理体制を職員の80%以上が理解する。	管理部危機管理・施設備品係	・訓練や安全学習の指導の前に各職員が『危機対応マニュアル』を理解する一方、職員・児童・生徒が動きやすいマニュアルを意識して、内容を係として検討する。	A		A	・職員会議で、危機管理マニュアルに対応した実施要項を作成し、周知を図った。		・今後も『危機対応マニュアル』 の内容について、本校の危機管理体制を職員の80%以上が理解できるよう、職員の全体連絡や職員会議などで連絡をしていきたい。
		○職員の80%以上が日々の学校生活の中で学校設備への安全意識を持ち、児童生徒に対して安全への配慮ができる。	管理部危機管理・施設備品係	・職員の安全に対する意識が高まるよう、継続して職員会議などで啓発活動に努める。 ・校庭の遊具の更新について検討する。	A		A	・校内での「ヒヤリハット事例」について職員間で共有するとともに、地震などの災害や全国的な事故が起きた際には、職員に周知するとともに、校内での発生時の対応について情報提供した。		・震度5弱以上の地震が起きた場合の学校での取り組みを具体的に検討していきたい。 ・校庭の遊具の更新について事務室とも連携しながら取り組んでいきたい。
	8　いじめをしない優しい心を持った児童生徒を育てる指導を行っていますか。	○いじめ発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	生徒指導部	・いじめに関する校内研修を通して、いじめに関連する法規の理解、いじめへ対応する教師の資質向上にを図る。	A	A	A	・いじめの未然防止に向けて組織的に対応していくとともに、児童生徒が適切な人間関係を築けるよう学習支援した。また、対応する教師の資質を向上図るためのいじめに関する校内研修を重ねた。		・いじめの未然防止に向け、教師が児童生徒の情報共有体制を整えたり、適切な組織の体制を啓発したりしていく。
Ⅴ　将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9　キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○児童生徒の生涯を見通して高めたい力について指導内容や方法に関して、保護者の80%以上から理解を得ている。	進路指導部	・キャリア教育全体計画をもとに、各段階に合わせたキャリア発達能力の目標を軸におき、系統的な指導を行う。	A	A	A	・各段階に合わせたキャリア教育の視点に立ち、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」等に位置づけながら教育活動を行った。	・将来の生き方に結びつく進路指導についても高い評価を得ていることがうかがえ、素晴らしいと思う。 ・卒業後の将来は一生である。進路に関しては、学校での指導や関係機関との連絡、そして、家族・本人・職員等での話し合いが大切だと思う。就労先からの挫折で生活会議事業所への利用変更がある方が多々あった。 ・各学部において必要な情報発信をしたり、セミナーや研修視察など積極的に行っていると感じる。進路ガイダンス等小学部からでも参加できることは評価している。	・今後も、キャリア教育全体計画をもとに、学部間で連携しながら系統的な指導を行う。
	10　保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○関係機関と連携した行事について、参加した保護者の80%以上から満足を得ている。	進路指導部	・保護者のニーズに応じた進路行事を実施し、情報提供に努める。	A	A	A	・進路行事に参加した保護者アンケートでは、内容について「満足できた」の回答が100%であった。開催時期については、参加しづらさを感じたという意見もあった。		・保護者アンケートの結果から、次年度の「進路相談会」「事業所等見学会」の開催時期を変更した。今後も、保護者のニーズに沿いながら進路行事を立案し、実施していく。
		○高等部3年生は移行支援連絡会議を年1回以上設定する。	進路指導部	・福祉系では居住地域毎に、企業系では就労先毎に移行支援連絡会議を行う。	A		A	・福祉サービス利用の高等部3年生については、伊勢崎市以外は学校で移行支援連絡会議を行った。企業系は関係機関と顔合わせや情報交換を行う場を設け、卒後の生活に円滑に移行できるように努めた。		・今後も関係機関担当者と連携し、会議の日程や内容を工夫しながら、効率よく実施する。
		○相談支援員とつながっているケースでは、年1回以上担当者会議を開き、指導連携を図る。	進路指導部	・担当者会議への参画を通して、児童生徒の実態や課題等を共有し、学校での進路指導に生かす。	A		A	・担当者会議や福祉サービスのモニタリングに随時協力し、関係機関との間で児童生徒に関する情報共有に努めた。		・担当者会議の記録を回覧したり、学部会等の機会に報告したりして職員間で情報共有し、学校生活の様々な場面での指導に生かしていく。